



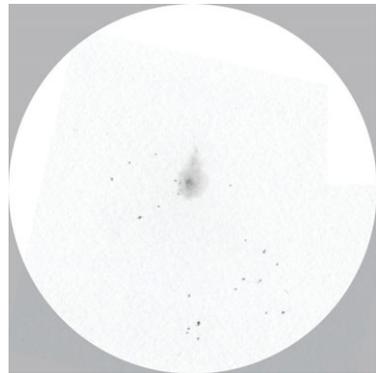
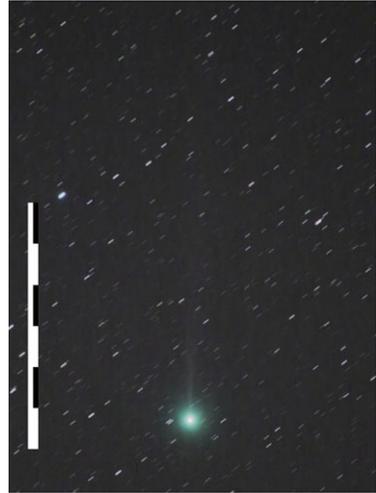
明るくなったラブジョイ彗星

2014年の年末から2015年1月にかけて、ラブジョイ彗星(C/2014Q2)が明るくなりました。2013年の年末から2014年の年明けにかけても、ラブジョイ彗星(C/2013R1)が明るくなりましたが、発見者が同じであるため、同じ名前の彗星になっているだけで、別の彗星です。

今回のラブジョイ彗星は、2014年8月に発見された彗星で、その軌道から計算すると、最も明るくなるのが1月10日過ぎ頃、明るさは、発見当初の予測では6等級台という予測でした。発見されてから2014年12月まで日本では観測できない南の空を移動していたため、自分で観測することもなく、「うちゅう」の記事では取り上げることはしませんでした。

筆者が初めてラブジョイ彗星を観測したのは、2014年12月23日の夜でした。奈良県吉野町で観測したところ、9×35の双眼鏡で簡単に見つけることができ、10cm屈折望遠鏡では、うっすらと尾も見える状態でした。初期の光度予報では、その頃は6等台の半ばあたりの予報だったので、これほど良く見えるとは予想していませんでした。この日の観測では、スケッチと写真を撮り、明るさを「5等くらい」と見積もりました。ネット上に掲載されている光度予報も上方修正され、最盛期には4等台半ばから前半との予測になりました。

その後は、都市光や薄雲、月明かりなどの影響があって、彗星の成長の様子は筆者の目には掴めなかったのですが、年が明けて1月8日には、月の出前の時間帯に、奈良県山添村に出かけて、観測ができました。冬型の



12月23日のラブジョイ彗星

(上)写真データ:カメラ・レンズ・処理

法は表紙写真と共通

感度設定:ISO3200相当

露出:30秒×40コマ

撮影時刻:23:14~23:34(JST)

(下)スケッチデータ:

時刻:22:48~22:58(JST)

望遠鏡:VIXEN FL102S 約44倍

灰色の円は直径約2° 右が西



(左)1月8日のラブジョイ彗星
 写真データ:カメラ・レンズ・処理法は
 表紙写真と共通
 感度設定:ISO1600相当
 露出:30秒×38コマ
 撮影時刻:19:19~20:06(JST)
 雲の少ない時間の写真のみを選んだ
 ため、恒星が破線になっている

気圧配置で雲が行き来する中、スケッチと写真を撮りましたが、それだけではなく、この日は彗星の光度を「4等くらい」と評価し、肉眼で見つけることができました。1月10日には吉野町で、何人かの友の会の会員さんと一緒に観測できました。この夜は光度の評価を「3等台後半」とし、双眼鏡でも尾を認めることができました。

その後、16日、24日と観測を続け、24日には比較的雲の少ない環境で、伸びた尾を写真に収めることに成功しました(表紙写真)。24日の時点では、光度評価は「4等くらい」と最盛期を過ぎていますが、双眼鏡でも1°ほどの長さの尾を認めることができました。

ラブジョイ彗星は近日点(太陽に最も接近する軌道上の位置)を通過するのが1月30日(UT)であり、2月に入ってもしばらくは明るさを保つと思われます。初期の予報ではこれほどまでに立派になると予想していなかったのですが、やはり予報通りにならないのが彗星観測の醍醐味でしょうか。

飯山 青海(科学館学芸員)

表紙写真撮影データ:

カメラ:Fuji FinePix S5Pro レンズ:300mmF4.5(開放)

感度設定:ISO1600相当 露出:30秒×62コマ(合計1860秒)

撮影時刻:2015年1月24日22:11~22:44(JST)

RAWで撮影して、ステライメージで彗星核基準でコンポジット、フォトショップでトーンカーブ等調整とトリミング。スケールバーは1°

